

## 【干支新語：「甲午（きのえ・うま）平成26年・2014年」】

平成26年1月1日

一般社団法人 エリアマネジメント推進協会

代表理事 出口晴三

平成26年を迎えて、年頭のご挨拶を申し上げます。

平成26年は東日本大震災に遭遇し、はや3年が経過して一千数十日が経ちました。国内は陛下のお言葉「苦難を分かち合う」を心に抱き被災地の方々の思いを心に刻んで復旧・復興に一致団結、本年こそ本年こそ民族の底力を発揮しなければなりません。

しかしながら、政界の混乱は眼を覆うばかりでありました。国難とも申すべきこの時にあたり

本年こそ本年こそは「まつりごとをもって・おさめる。政治」の本領を発揮していただきたいと期待をさせていただくものであります。

国外は、リーマン・ショック以来の米国の変調に加えてEUヨーロッパ諸国の財政危機は世界を暗雲が覆う如き状況をもたらし一刻も早くこの頸城から脱しようとのいまだ苦渋の選択の日々が続いております。

日本人が日本国が先ず国内とりわけ被災地の人心をやすんじることを第一に、更には国際的にも2020年開催の東京オリンピックが決定し、国の内外ともに我が国に期待する世界の心情をも対処しなければならないのが本年・平成26年の我が国の置かれた位置づけであろうと思います。

人類のとりわけ東洋精神の蓄積は今日まで度々、いや毎年この年の指針を定義し続けてまいりました。今は亡き「安岡正篤先生の遺された著作（干支新語）」を参考に本年の指針を著して見たいと思います。

平成26年の干支は「甲午（きのえうま）」の歳であります。昨年の混乱に満ちた歳に引き続きこの混乱の時代をどのように乗り越えるかと言う知恵が求められる歳であります。

「甲・きのえ」は、よろいで、鱗一よろいをつけた草木の芽が、その殻を破って頭を少し出したという象形文字で、これを人事に適用致しますと、旧体制が破れて、革新の動きが始まるということの意味しております。

そこでこれを実践的に考えると、この自然の気運に応じて、宜しく旧来のしきたりや因習を破って、革新の歩を進めねばならぬということになるわけです。

干支の干は、潜在エネルギーの発展段階に於ける内外対応の状況を分類したものであります。

しかし元来干も支も生命の発生・成長・収蔵の過程、或いはエネルギーの変化の過程を時代に当てはめて解釈したものですから、私生活の細々しいことに適用すべきではなく。やはり時勢の変化というものに適用することが一番正しいのであります。

「午」はどういうことを表すかと言うと、上の午は古代文字では午と書き、これは地表を表しておる。

十の一は陽気で、一は陰気が下から突き上げて正に地表に出ようとする象形文字であります。

だから午は忤なりでそむく、さからうという意味になります。

具体的に歴史上の事実を照らして「午」歳の出来事を拾ってみますと。

明治39年（午歳）日露戦争勝利の翌年（日清戦争が戦勝して、38年日露戦争に戦勝）は37・38年の無理・苦勞が一斉に突き上げて来た。

つまりその反動が現れて来たのであります。

しかもそれが複雑で、その上、勝った勝ったというので、どうしても国民は好い気になる。上っ調子になる。関係者はどうしても傲慢になる、。兎に角物質的にも精神的にもいろいろの矛盾や悩みが突き上げて来たのが明治39年の「午」歳の年でした。

更に遡る「午」歳は、弘化3年（午歳）になり仁考天皇が崩御されて孝明天皇が即位しておいでになります。

やはり一つの大きな変わり目でありました。この歳から盛んなりし、平和なりし徳川幕府勢力がだんだん動揺して来る。

兎に角勤皇倒幕の反動勢力が勝って、在来の幕府勢力はその中へすっかり退却衰退してしまった。その結果日本国家・日本民族は大きく躍進しました。

これは在来の勢力が破れて、反動勢力に支配された例であります。そのきっかけを作ったのが弘化3年の「午」歳でありました。

もう少し遡って「午」歳を見てみますと、慶長11年（午歳）がそうであります。秀吉が死んで、秀頼が後継として右大臣になっている。

豊臣家勢力の一つの安定のように見えますが、その同じ年に徳川秀忠（徳川2代将軍）が内大臣になっておるのであります。

つまり在来の豊臣勢力に対する徳川反動勢力がもう突き上げて来ておる。そして豊臣家が倒れて、徳川の天下になった。これは反動勢力が勝った例であります。

もっと遡って文治2年（午歳）という年が「午」歳で、この時に平家が滅んで源氏が勝った。処がその同じ年にもう義経という反動勢力が現れて、お互いに噛み合っておる。

こういう風に歴史の事実を点検してくると、成る程午歳と言う年は意味深長と言うか、頗る機微に亘ると言うか、容易ならざる年であることがよくわかる。

理論的に言いましても、経験的に言いましても、重大な年であることがひしひしと感ぜられるのであります。

勿論「午」歳の歴史的事実と、本年の「甲きのえ・午うま」は、「午歳」の歴史的事実を基に、「甲きのえ」は、「旧体制が破れて、革新の動きが始まるということの意味しております。そこでこれを実践的に考えると、この自然の気運に応じて、宜しく旧来のしきたりや因習を破って、革新の歩を進めねばならぬということになるわけです。」

本年も昨年に引き続き政治的には多事多難の年となりそうではありますが。

2020年（6年後）の東京オリンピック開催を目標にしつつ、何より被災された東日本大震災の被災者の方々・未だ手つかずの被災地の復興を疎かにしてはなりません。

天皇陛下のお言葉であられる被災者・被災地に対する思い「苦難を分かち合う」更に6年後開催される東京オリンピックへの「希望の松明を翳して」全国民が着実にそれぞれの立場を弁えてそれぞれの「あゆみ」を歩んで参りたいと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。